

2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月3日
東

上場会社名 住友精化株式会社 上場取引所
 コード番号 4008 URL <http://www.sumitomoseika.co.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小川 育三
 問合せ先責任者(役職名) 取締役経理企画室長 (氏名) 町田 研一郎 (TEL) 06-6220-8515
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	84,234	11.9	6,556	△14.1	6,733	△10.2	4,723	△15.8
2021年3月期第3四半期	75,264	0.7	7,632	27.3	7,499	47.2	5,608	68.0

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 5,700百万円(△8.1%) 2021年3月期第3四半期 6,203百万円(124.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	342.75	—
2021年3月期第3四半期	406.61	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	119,324	79,448	64.1
2021年3月期	107,834	75,491	67.5

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 76,464百万円 2021年3月期 72,794百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	50.00	—	50.00	100.00
2022年3月期	—	60.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	60.00	120.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

詳細は、本日公表いたしました「2022年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	115,000	11.4	8,000	△20.8	8,200	△21.0	5,500	△22.7	399.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 ー社(社名)ー 、除外 ー社(社名)ー
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	13,972,970株	2021年3月期	13,972,970株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	253,199株	2021年3月期	180,899株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	13,781,181株	2021年3月期3Q	13,792,078株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P 2
(1) 経営成績に関する説明	P 2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P 2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P 3
(1) 四半期連結貸借対照表	P 3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P 5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P 7
(継続企業の前提に関する注記)	P 7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P 7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	P 7
3. 第3四半期連結決算概要	P 9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2021年4月1日～2021年12月31日）における国内外の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にありましたが、持ち直しの動きが見られました。

このような状況のもとで、当第3四半期連結累計期間の当社グループの売上高は842億3千4百万円（前年同期比11.9%増）、営業利益は65億5千6百万円（前年同期比14.1%減）、経常利益は67億3千3百万円（前年同期比10.2%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、連結子会社であるSumitomo Seika Europe S.A/N.V.において、欧州市場における事業環境悪化の影響等を受け、減損損失3億1千8百万円を計上したことなどにより47億2千3百万円（前年同期比15.8%減）となりました。

また、1株当たり四半期純利益は342.75円、ROEは6.3%となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用したことに伴い、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上高は865百万円減少し、売上原価は655百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ210百万円減少しております。

セグメント別業績の概要は次のとおりであります。

(吸水性樹脂セグメント)

当セグメントでは、売上高は565億8千8百万円（前年同期比13.6%増）、営業利益は21億9千6百万円（前年同期比51.5%減）となりました。売上高は、原料価格の上昇および為替の影響による販売価格の上昇などにより増収となりました。営業利益は原燃料価格や物流費の上昇などにより、減益となりました。

(機能化学品セグメント)

当セグメントでは、売上高は142億2百万円（前年同期比6.9%増）、営業利益は23億4千3百万円（前年同期比59.8%増）となりました。これは医薬中間体や機能製品、粉末樹脂の販売数量が増加したことなどによるものであります。

(ガス・エンジニアリングセグメント)

当セグメントでは、売上高は130億8千2百万円（前年同期比10.9%増）、営業利益は20億8千4百万円（前年同期比24.3%増）となりました。これはエレクトロニクスガスの販売数量が増加したことなどによるものであります。

(その他セグメント)

当社グループは上記事業のほか、人材派遣業務等を行っております。当セグメントでは、売上高は3億6千万円（前年同期比3.3%減）、営業損失は7千2百万円となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期（2021年4月1日～2022年3月31日）の連結業績予想につきましては、以下のとおり修正しております。詳細につきましては、本日公表いたしました「2022年3月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
通 期	115,000	8,000	8,200	5,500

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後の様々な要因によって差異が発生する可能性があります。今後、業績予想に関して修正の必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,657	27,657
受取手形及び売掛金	24,217	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	29,127
商品及び製品	13,241	15,914
仕掛品	400	643
原材料及び貯蔵品	2,827	3,590
その他	1,829	3,152
貸倒引当金	△9	△9
流動資産合計	68,164	80,077
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,474	14,146
機械装置及び運搬具（純額）	13,357	11,672
その他（純額）	6,942	8,559
有形固定資産合計	34,775	34,378
無形固定資産		
その他	233	214
無形固定資産合計	233	214
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	1,618	1,671
その他	3,053	2,994
貸倒引当金	△10	△10
投資その他の資産合計	4,661	4,654
固定資産合計	39,670	39,247
資産合計	107,834	119,324
負債の部		
流動負債		
買掛金	10,841	16,814
短期借入金	10,674	12,097
未払法人税等	1,511	537
賞与引当金	851	440
その他	3,571	5,003
流動負債合計	27,451	34,893
固定負債		
長期借入金	2,934	2,913
退職給付に係る負債	1,508	1,662
その他	450	406
固定負債合計	4,892	4,981
負債合計	32,343	39,875

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,698	9,698
資本剰余金	7,539	7,539
利益剰余金	52,104	55,311
自己株式	△261	△487
株主資本合計	69,080	72,060
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	685	778
為替換算調整勘定	2,252	2,950
退職給付に係る調整累計額	776	674
その他の包括利益累計額合計	3,714	4,403
非支配株主持分	2,696	2,984
純資産合計	75,491	79,448
負債純資産合計	107,834	119,324

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	75,264	84,234
売上原価	56,661	64,919
売上総利益	18,603	19,315
販売費及び一般管理費		
発送運賃	3,171	4,839
従業員給料及び賞与	2,072	2,283
賞与引当金繰入額	161	160
退職給付費用	160	70
研究開発費	2,140	1,876
その他	3,263	3,527
販売費及び一般管理費合計	10,970	12,758
営業利益	7,632	6,556
営業外収益		
受取利息	62	63
受取配当金	48	53
為替差益	—	178
補助金収入	64	46
その他	33	86
営業外収益合計	208	428
営業外費用		
支払利息	170	204
為替差損	151	—
その他	19	47
営業外費用合計	342	252
経常利益	7,499	6,733
特別損失		
固定資産除却損	68	64
減損損失	—	318
特別損失合計	68	382
税金等調整前四半期純利益	7,430	6,350
法人税等	1,634	1,562
四半期純利益	5,795	4,788
非支配株主に帰属する四半期純利益	187	65
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,608	4,723

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	5,795	4,788
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	258	92
為替換算調整勘定	175	920
退職給付に係る調整額	△26	△101
その他の包括利益合計	407	911
四半期包括利益	6,203	5,700
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,124	5,412
非支配株主に係る四半期包括利益	79	287

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年11月2日開催の取締役会決議に基づき、当第3四半期連結累計期間において自己株式72,300株の取得を行っております。この結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が226百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が487百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末までにはほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を繰延べております。

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、従来は、輸出販売においては主に船積時に収益を認識しておりましたが、主にインコタームズ等で定められた貿易条件に基づきリスク負担が顧客に移転した時に収益を認識することとしております。また、工事契約に関して、従来は、工事の進捗部分について成果の確実性が認められる場合には、工事進行基準によっておりましたが、財又はサービスに対する支配が顧客に一定の期間にわたり移転する場合には、財又はサービスを顧客に移転する履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。履行義務の充足に係る進捗度の測定は、各報告期間の末日までに発生した工事原価が、予想される工事原価の合計に占める割合に基づいて行っております。なお、契約における取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い工事契約については代替的な取扱いを適用し、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上高は865百万円減少し、売上原価は655百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ210百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

3. 2022年3月期 第3四半期連結決算概要

2022年2月3日

住友精化株式会社

1. 業績

(単位:百万円)

	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	増 減	2022年3月期 (予想)
売 上 高	75,264	84,234	8,970	115,000
営 業 利 益	7,632	6,556	△ 1,075	8,000
経 常 利 益	7,499	6,733	△ 765	8,200
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,608	4,723	△ 884	5,500
1株当たり四半期純利益	406円61銭	342円75銭	△63円86銭	399円51銭
自己資本四半期純利益率(ROE)	8.4%	6.3%	△2.1%	7.4%
平均為替レート(円/\$)	106.12	111.11	—	112.00
平均為替レート(円/元)	15.44	17.25	—	17.50
ナフサ価格(円/KL)	28,800	54,000	—	56,300

当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用したことに伴い、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上高は865百万円減少し、売上原価は655百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ210百万円減少しております。

2. セグメント別売上高・営業利益

(単位:百万円)

		2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	増 減	2022年3月期 (予想)
吸水性樹脂	売 上 高	49,811	56,588	6,777	79,000
	営 業 利 益	4,524	2,196	△ 2,327	2,800
機能化学品	売 上 高	13,280	14,202	922	18,500
	営 業 利 益	1,465	2,343	877	2,600
ガス・エンジニアリング	売 上 高	11,800	13,082	1,282	17,000
	営 業 利 益	1,676	2,084	407	2,600
そ の 他	売 上 高	372	360	△ 12	500
	営 業 利 益	△ 42	△ 72	△ 29	0
消 去	売 上 高	—	—	—	—
	営 業 利 益	8	5	△ 3	—
合 計	売 上 高	75,264	84,234	8,970	115,000
	営 業 利 益	7,632	6,556	△ 1,075	8,000

当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用したことに伴い、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「吸水性樹脂」セグメントの売上高が748百万円、セグメント利益が150百万円、「機能化学品」セグメントの売上高が69百万円、セグメント利益が44百万円、「ガス・エンジニアリング」セグメントの売上高が47百万円、セグメント利益が14百万円、それぞれ減少しております。「その他」セグメントの売上高、セグメント損失は変更ありません。